

報告（3）テレストローク機器体験及び意見交換会について

1. 経緯等；

- ・ 「協議会」副委員長／委員の長谷川先生と、県顧問山田との意見交換より派生した。
- ・ 当初、小規模な体験デモとして計画したが、想定外に多数の研究者等が参加することとなった。
- ・ そのため、TeleStroke 機器を循環器病対策の研究推進に関わる研究者等や行政官に実際に触れて頂き、同機器の機能・効果やポテンシャルについての理解を深める場として企画した。
- ・ さらに、研究者等の取り組みを臨床家に紹介する機会を設け、特定のテーマの下に、学術分野や組織を越えた横断的なアイデア交換の場の実行可能性と有効性を探った。
- ・ 同会の概要は、別紙 1 参照

2. 報告の趣旨；

同会で紹介・議論された内容で、県の循環器病対策推進計画に定める「取り組むべき施策」の具体化に関連する内容を紹介し、今後の循環器病対策の計画的な推進に資する。

3. 同会の状況；

(1) 日本でも、テレストロークの実装について機が熟しつつある。

（「計画」第 4 章第 2 節第 2 項(2)関連⇒別紙 2）

- ・ 法的課題、診療報酬等の制度面の課題は、概ねクリアされている。
- ・ コロナ禍によるオンライン・ワークの急速な普及により、当該技術を広く臨床の現場に受け入れられる状況が醸成されており、社会実装への技術面のハードルは低い。

⇒TeleMedicine／TeleStroke 導入に向けた具体的な活動を開始する時期

（ただし、脳・心・他の救急疾患との協同・整合、具体的所要（地域・件数等）、段階的整備／働き方改革への対応等を機に一気に整備、財政負担分担要領等、県レベルでの計画的導入の前に検討を要する事項も多い。）

(2) 研究者等と臨床家等とのアイデア・意見交換は、非常に創発的であり有意義である。

（「計画」第 4 章第 3 節第 2 項関連⇒別紙 2、発表者等⇒別紙 2）

- ・ 創発の例（別紙 2）

⇒より本格的な「学術分野や組織の壁を取り払った」アイデア交換等の場を企画予定

（横浜国大・神奈川県等が申請を予定している文部科学省の「共創の場」への採否や横浜国大湘南キャンパスの具体化等を踏まえ、今年秋以降に順次検討予定）

- ・ テーマを設定し、ニーズ側（こういう事で困っている。）と、シーズ側（こういう事が実現できそう。）が、相互にアイデアを交換し、継続的な連携の下に効果的なイノベーションを効率的に推進できる枠組みを企画したい。（神奈川県、横浜国大）
- ・ ニーズ側として、協議会委員の皆様は、是非ご協力を頂きたい。
（循環器病の医・看・リハ・救急・患・行政の多職種からなるコミュニティ）
- ・ シーズ側として、横国大、湘南 i パークを始め、県内・関連の研究機関の協力を仰ぐ。

テレストローク機器体験及び意見交換会

日時：2023 年 6 月 13 日（火） 14:00～17:00

場所：第 5 会議室 （新庁舎 5 階）

議事次第

1. 開会の挨拶（14:00～14:03）首藤副知事
2. 会議の趣旨説明・参加者紹介（14:03～14:15）山田顧問
3. 長谷川先生によるイントロダクション（14:20～14:35）長谷川先生
4. telestroke 模擬体験（14:35～15:25）
5. 意見交換（15:30～16:50）
 - telestroke 模擬体験 2 回目・意見交換
 - 関連技術動向イントロダクション（ウィーメックス株式会社）
 - ご参加の皆様からの発表・意見交換
 - ① 大澤先生（東京都健康長寿医療センター研究所）
 - ② 島先生、下野先生、大沼先生（横浜国立大学）
 - ③ 山本様（野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社）
6. 閉会の挨拶（16:50～17:00）山田顧問

※ UHC; Universal Health Coverage

1. 「計画」第4章 第2節 第2項 (2)取り組むべき施策

県内のどこに住んでいても、どこで発症しても、適切な治療を受けられる体制の構築を進め、脳卒中、心血管疾患の特性に応じた医療の均てん化を図るため、医療機能の役割分担と連携に係る検討を進めます。

2. 「計画」第4章 第3節 第2項 取り組むべき施策

また、県のヘルスケア・ニューフロンティア施策における循環器病の研究推進では、特に、「発症直前の予兆から救急搬送開始まで」の間を「発症期」として新たに着目するとともに、「予防・早期介入から後遺症を有する者の QOL 向上に資する方法まで」の研究開発について、学術分野や組織の境界を取り払い、医学の取組に加え、理工学や人文社会科学の学術的知見などを融合させた研究開発を推進します。

3. 創発の例；(長谷川先生の私信より改変)

(1) 力触覚技術（横浜国大 下野先生）

指や手に伝わる圧力を遠隔で模倣する技術は、遠隔診療における触診の実施を可能にする等、様々な応用場面のイメージがわいた。

(2) 社会科学・経営学（横浜国大 大沼先生）

新しい技術が、現場に普及する組織的・社会的メカニズムや阻害要因をお示し頂き、telestroke や血管内治療等の効果的な社会実装を推進する際に有用な多くの示唆を得た。

4. 研究者等の概要（敬称略）

(1) 下野 誠通

横浜国立大学 工学研究院 准教授

感覚を伴った遠隔操作技術、ハプトニクス、触覚情報処、匠の技の遠隔移転 等

(2) 大沼 雅也

横浜国立大学 国際社会科学研究院 准教授

経営学、先端技術が社会に普及するメカニズムの研究 等

(3) 島 圭介

横浜国立大学 環境情報研究院 准教授

人間やロボットの運動制御、立位年齢、ライトタッチ現象 等

(4) 大澤 郁朗

東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム生体環境応答 研究副部長

水素ガスの活性酸素種抑制効果、虚血再灌流抑制効果、t-PA 投与期間延伸の可能性 等

(5) 山本 真悟

野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社

(令和2・3年度に神奈川県が実施した「循環器疾患救急対策推進事業」の調査担当者)

最新の海外関連事情の紹介